

江戸川乱歩の創作ノート（昭和三十年）

〈解題〉

——「化人幻戯」「影男」「月と手袋」「十字路」と少年探偵

江戸川乱歩の創作ノートを紹介する。このノートは、江戸川乱歩が昭和三十年に使用していたものである。江戸川乱歩邸に残されていたもので、現在は立教大学に寄託されている。

A5版よりやや大きいハードカバーで、各頁の上部にはナンバリングされている。百頁まであるが、十八から二十三頁、五十二から七十五頁は切り取られている。八十五から九十八頁は使用されていない。

一頁目の冒頭には、「昭和30年1月20日より」とある。「化人幻戯」連載途中から始まり、終わりの方の頁には、八月、九月といった日付が見られる。さらに、数年後に再利用したと思われる、乱歩最晩年の昭和三十九年の印税記録ま

でもが書かれている。中心となっているのは長篇小説「化人幻戯」の執筆メモだが、同時期に執筆していたいくつもの作品についても書かれている。また、原稿を出版社に渡した記録だけではなく、執筆とは直接関係のない会合への出席記録や、旅行などについても書かれており、日誌的な意味も持っていたようである。

乱歩の回想録『探偵小説四十年』（桃源社、昭和三十六年）では、昭和三十年度に「小説を書いた一年」という章題がつけられている。乱歩は戦中から戦後にかけて、ほとんど小説を書いて来なかった。この昭和三十年に限って、多くの小説を書いたが、その後はまた、小説の執筆から遠ざかる。ただし少年物については別で、その後も書き続け

られている。

このノートは、この極端に小説の執筆量が増えた年の創作活動の記録として、重要なものとなっている。

乱歩の小説執筆量が減ったのは、昭和十四年頃であった。文庫版短篇集『鏡地獄』から「芋虫」の削除を命じられ、同時期に進行していた全集などにも多くの箇所を書きかえが指示された。そういった時勢のなかで、乱歩は「隠栖を決意す」と書いてるように、執筆から遠ざかる覚悟をしなければならぬ状況になる。その後、戦中には、乱歩は町会の役員を務めるなど、創作からは離れていた。ただ、洋書の探偵小説を読むことは続け、友人の井上良夫と探偵小説批評の手紙をやりとりするといったことはしていた。また、それまで集めていた自分自身についての資料をまとめ、スクラップブック『貼雑年譜』の作成もこの時期におこなっている。こういった活動が戦後へとつながっているのだった。

終戦によってそれまでの抑圧がなくなり、探偵小説は復興へと向かった。乱歩はその中心として活躍した。探偵小説の作家や愛好家をまとめて、探偵作家クラブを結成するなど、組織を作り、企画、運営にかかわって、探偵小説界の中心としての役割を担った。こうした活動に追われたこ

ともあって、昭和二十年代に乱歩によって書かれた小説の数は少なかった。

乱歩は昭和二十九年に還暦を迎え、十月三十日には盛大な祝賀会も開かれた。このときの様子は『探偵小説四十年』にも詳しい。探偵作家の夢座海二が『探偵作家クラブ会報』に書いた報告の再録をし、乱歩がそれを補足している。

乱歩の還暦祝賀会は、日本探偵作家クラブ、捕物作家クラブ、東京作家クラブの共催で、丸の内にある東京会館で開催された。来会者は五百名を記録したという。この会の中で、乱歩から日本探偵作家クラブに基金が提供され、探偵小説奨励のための賞を制定することが発表される。江戸川乱歩賞である。

祝賀会の出席者には『探偵小説三十年』の特装版、『別冊宝石』第四十二号「江戸川乱歩還暦記念号」、『探偵倶楽部』十二月号「乱歩還暦記念特輯号」、『黄色の部屋』第十一号「江戸川乱歩先生華甲記念文集」、以上四冊が配られた。『探偵小説三十年』は乱歩の回想録の連載をまとめたもので、のちに『探偵小説四十年』となる本の前半部分、昭和八年までの記録である。他の三つの雑誌特集号は、それぞれに乱歩についての思い出や批評を掲載したものだった。

この還暦記念号に「化人幻戯」の第一回が掲載されている

たのである。また、乱歩はこの祝賀会の席で、来年は必ず小説を書くという宣言をしている。

こうして、翌昭和三十年、乱歩にとって例外的な多作の年を迎える。

この年には、「化人幻戯」「影男」「海底の魔術師」「灰色の巨人」「月と手袋」「防空壕」「大江戸怪物団」「探偵少年」「十字路」といった小説を書いている。『新青年』の「探偵小説三十年」の連載は続いていたし、他にも多くの評論・随筆も書いたのである。

ここで紹介する創作ノートには、これら昭和三十年の小説作品のメモが残されている。登場人物の整理と、簡単な展開などが書かれている。また、日誌も兼ねたものであったようで、詳細ではないが行動の記録が残されている。読書の記録や抜き書きもある。ほかには、文章表記をめぐって、ふりがな、送り仮名をどのように使用していくかといったメモもある。

このように、小説にかかわることだけではなく、この期間の乱歩の仕事にかかわるさまざまな内容が記録されたノートである。

ただ、前年と比較して少なくなったとはいえ、評論・随筆はこの年にも書いており、こういったものについてのメ

モは入っていないので、別にノートを作っていた可能性もある。あるいは、評論についてはあらずじ等を記録した「探偵小説ノート」（現存）だけを元にして原稿を書き、小説についてはノートを作成するという方法を取っていたのかもしれない。

いずれにせよ、このノートには、当時乱歩が書いていた小説についてのメモと、日々の動向などが残されており、この年突如増えた小説執筆の軸となったものであると言えるだろう。

乱歩は『探偵小説四十年』をはじめとして、多くの回想を発表している。自作について自ら解説することもある。また、光文社文庫「江戸川乱歩全集」には、新保博久・山前譲によって詳しく解説もされている。そのため、このノートによって詳しく解説もされている。そのため、この訳ではない。だが、そういったものに書かれた内容をさらに詳細に、具体的に見ていくことを可能にする資料ということではあるだろう。

このノートの中心となっているのは「化人幻戯」である。還暦記念号に第一回が掲載された「化人幻戯」は、第二回が翌昭和三十年の新年特大号に掲載される。以後、十月ま

で連載された。

「影男」と比較して「化人幻戯」は「やや一生懸命に書くとしたものである」と乱歩は書いている。「宝石」と約束した締切りが迫ってくるので、伊東へ行つて一週間ほどボンヤリしてみたが、どうしても、これなら書きたいという筋が浮かんで来ない。還暦祝いの席で、当てもないのに約束してしまっているの、書かないわけには行かぬし、宝石にも日を決めて約束してある。そういうふうには行かぬし、詰つたら、何か出てくるだろうとたかを括っていたのが、全くあてがはずれたので、またしても自信を喪失したが（私は小説を書き出してから何度自信を喪失したことであらう）ともかく、そのとき浮かんできたうちの、いくらかましな筋を元にして、書きはじめることにした。荒筋はノートしてあったのだが、実際に書くほど細部まで注意が行き届いていないので、いざ書いてみると、物理的にも心理的にも、矛盾が出てきて、どうにも始末におえなくなる。」（『探偵小説四十年』）

こういった試行錯誤の跡が、この創作ノートである。ノートは第四回（二頁）、第五回（九頁）、第六回（十七頁）、第七回（三十一頁）、第八回（三十九頁）、第九回（四十三頁）、と続く。毎月悩みながら書いていたこ

とがわかる。

光文社の『面白倶楽部』には新年号から「影男」を連載していた。「化人幻戯」が戦前に『新青年』に連載して途中で書けなくなった「悪霊」を意識していたのに対して、この「影男」は、講談社などの読物雑誌に連載したいいわゆる通俗長篇の流れに位置するものである。

七・八頁に「着想集」が書かれている。参考とする作品の他、「面白」はモット「エロ」でなくては」というような、掲載誌への意識も見られる。

この作品の前段階として、「怪物」という草稿がある。（『国文学解釈と鑑賞』平成十六年八月別冊『江戸川乱歩と大衆の二十世紀』に掲載。）「29年10月24日 面白クラブ連載第一回として書きかけたも あとがむつかしそうなのでやめる。」と欄外に書かれている。内容はまったく異なるので、この草稿の案を破棄して新たに書いたのが、「影男」ということになる。

文藝春秋新社『オール読物』四月号には「月と手袋」を書いている。刊行中の春陽堂版全集の第十五巻（昭和三十年十一月）にも収録された。戦中に連載した「偉大なる夢」のトリックを再使用したもののだが、倒叙的、つまり犯人の側から書かれたものになっている。ノートの五・六頁に人

物表と構想がメモされている。二月九日朝に原稿を渡したという記述が七頁に見える。

長篇『十字路』は「書下し長篇探偵小説全集」の第一巻として、大日本雄弁会講談社から十月に刊行された。このノートの中では「犯罪十字路」として書かれている。この作品は、渡辺剣次がプロットの立案を助け、乱歩がまとめたものである。

「神田の駿台荘という旅館にこもって一気に書いてしまった」と『探偵小説四十年』にある。他には、一月に「六日より十二日まで神田駿台荘にて小説執筆」「神田の駿台荘へはその後もこの年の三月に八日ほど行っている。主として「十字路」執筆のためであった。」という記述も見える。

ノートの記述には、四月末から五月の初めに内容を考えた記述がある（二十九・三十頁）。そして章を再度整理し（四十一・四十二頁）、六月二十五、二十六日に十章、十一章を書いたとある（四十三頁）。

連作小説「大江戸怪物団」は、乱歩が第一回を書き、以降を他の作家が書いた小説である。『面白俱樂部』八月増刊に掲載された。乱歩はこの「大江戸怪物団」と「修羅桜」の二つの作品で、時代小説にかかわった。「修羅桜」のほう

は、実際には陣出達朗が書いたものようだが、こちらの「大江戸怪物団」は、原稿を渡した記録があるから、担当分は乱歩自身が執筆したと考えて良いだろう。

乱歩は五月二十二日から、京都旅行をしている。この旅行には「江戸怪物団の原作料と面白の稿料全部使う」とある。この旅行については「四夫婦京都旅行」として『探偵小説四十年』に記述されている。角田喜久雄、城昌幸、陣出達朗、乱歩が、それぞれ妻を同伴して京都へ行った。城夫妻は特急を利用し、乱歩たち三夫婦は、飛行機を利用したとある。京都では東映、松竹、大映などの映画会社の世話になり、桂離宮や東映撮影所などをまわった。この記述では二十六日までとあるが、ノートには「25日まで」とある。

短編「防空壕」は河出書房の文芸誌『文藝』七月号に掲載された。十一月に刊行された春陽堂版全集の第十五巻にも収録されている。昭和二十年の空襲を描いた小説である。

ノートには五月二十六日より六月一日にわたってこの小説を書いていたことが書かれている。京都旅行から帰宅した当日か翌日に取りかかったことになる。さらに、二十七日、二十八日には、坂口安吾忌や江戸川乱歩賞の授賞式に

外出している。

坂口安吾は探偵小説にも関心を持ち、『不連続殺人事件』を書いた。これにより、昭和二十四年に第二回の日本探偵作家クラブ賞を受賞している。安吾は昭和三十年二月十七日に死去した。百日目の法要に乱歩は出席したということである。東銀座の東京温泉でおこなわれたこの百ヶ日法要が第一回の安吾忌と宣言された。

『探偵小説四十年』には「私は坂口君のお葬式にも行かなかった。通知も受けなかったのだと思う。ところが、壇一雄君や文芸春秋社のきもいりで、安吾忌というものが定められ、一周忌の集まりには、私にも案内状が来たので、出席し、未亡人の坂口三千代さんとも知り合いになった。」とある。この「一周忌」とあるのが、実際にはこのときの第一回安吾忌のことと思われる。

この二十八日に授賞式があった第一回江戸川乱歩賞は、中島河太郎に贈られている。日比谷の松本楼で授賞式が行われた。続いて海野十三の慰霊祭が行われた。海野は昭和二十四年の五月十七日に死去している。七回忌ということになる。また、夜には日夏耿之介の出版会に出席したとある。このような多忙な活動の中、三十五枚の「防空壕」を書いたのであった。

少年探偵のシリーズは、昭和十一年の「怪人二十面相」に始まる。大日本雄弁会講談社の少年向け雑誌『少年倶楽部』に連載された。翌年には「少年探偵団」が連載される。一年間連載され、一冊の単行本となるサイクルを基本とした。

戦後には、発表舞台を光文社の雑誌『少年』へと移した。昭和二十四年の「青銅の魔人」が復活作である。以後、「虎の牙」（二十五年）、「透明怪人」（二十六年）、「怪奇四十面相」（二十七年）、「宇宙怪人」（二十八年）、「鉄塔の怪人」（二十九年）と続いている。

乱歩にとってこの少年物を書くことは、プレッシャーも少なく、楽しみでもあったようである。少年物はそのまま「超人ニコラ」（三十七年）まで続き、乱歩の最後の作品ともなった。

ノートには少年物についてのメモもいくつか見られる。主に章や節のタイトルが書かれている。少年物はこうした簡素な準備だけで書くことができたのであろう。

乱歩の少年物は、戦後には光文社の『少年』に連載されており、この年は「海底の魔術師」であった。「海底の魔術師」は、『少年』に昭和三十年一月号から十二月号まで、十二回連載された。十二月には光文社から『少年探偵江戸川

乱歩全集⑪海底の魔術師』として単行本化された。ノートでは「魔術師」と省略されている。

それとは別に、乱歩は大日本雄弁会講談社の『少年クラブ』にも再び連載をする。それが「灰色の巨人」だった。『少年倶楽部』は、昭和十一年から「怪人二十面相」から「大金塊」まで、少年探偵の最初の四作品が掲載されただけでなく、その後、「新宝島」、小松龍之介の名前で「智恵の太郎ものがたり」などを戦中に連載していた雑誌である。昭和二十一年に誌名『少年クラブ』と変更していた。『少年クラブ』の連載は「黄金豹」「サーカスの怪人」「奇面城の秘密」まで四年間続くことになる。

「灰色の巨人」は『少年探偵江戸川乱歩全集⑫灰色の巨人』として光文社から同じく十二月に刊行されている。

さらに九月十二日からは「読売新聞」に「探偵少年」の連載もしている。十二月二十九日まで、九十四回の連載である。三十一年九月『少年探偵江戸川乱歩全集⑬天空の魔人』に「黄金の虎」と改題され収録された。敵として怪人二十面相ではなく、魔法博士というキャラクターを登場させている。文章もさらに低年齢層に向けたものになっている。

翌昭和三十一年には『少年倶楽部』に「黄金豹」を連載

している。また『少年』には「魔法博士」を連載している。これらのタイトルも八月の記述に見ることができ、これらは「探偵少年」の構想の中で出てきたものと思われる。最終の九十九頁には、「黄色のゴリラ」を消し、「探偵少年」と書いてある。内容と共に、執筆が一週間の掲載分ごとにおこなわれていたこともうかがうことができる。

この年について回顧した『探偵小説四十年』の文章は、昭和三十四年に書かれている。そこには「考えてみるのに、どうも私は長篇の筋を細部まで予め考える力がないように思われる。」「息が短くて、一気に書く短篇または中篇でなければ向かない性格のようである。」といった自己分析がなされている。優れた長篇を書きたいと願いながら、思うように進められず悩んでいたのである。

このノートからも、乱歩にとって昭和三十年という年が「化人幻戯」を中心としていたことがわかる。他の小説の何倍もの頁がこの作品に使用され、試行錯誤の跡がうかがえる。「月と手袋」や「影男」は、登場人物表と着想が比較的まとめて書かれている。少年物については、登場人物といくつかのアイデアがメモされているだけである。こうしたメモの分量からも、乱歩の創作姿勢が見えてくると言える

だろう。

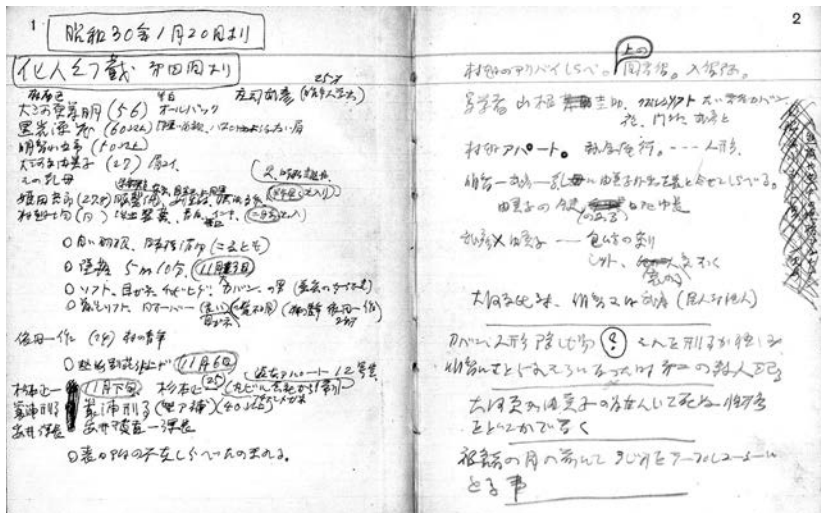
しかしこの年は、小説に向かった例外的な一年となった。乱歩は昭和三十年には数多くの小説を書いたが、翌年には「堀越捜査一課長殿」をのぞくと、小説作品は少年物だけになってしまう。その後も何年か少年物は続いていったが、一般の探偵小説はほぼ書くことはなかった。「小説を書いた一年」はこうして終わったのである。

そしてノートの終わりの方には、印税のメモが残されている。昭和三十年から時期は少し空いて、昭和三十九年のものである。乱歩は昭和四十年七月に死去しているので、最晩年の記録である。ポプラ社の少年探偵シリーズ、春陽堂の文庫などが、どの程度売っていたかがわかる貴重な資料である。

落合教幸

（立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター学術調査員）

□ 判読できなかった文字



化人幻戯ノート

1

昭和30年1月20日より

化人幻戯 第四回より

麻布区

大河原義明 (56) 半白 オールバック

庄司武彦 25才 (昨年大学出)

黒岩源義 (60以上) 浅黒い角顔、八字ヒゲのような太い眉

明智小五郎 (50以上)

大河原由美子 (27) 眉コイ

その乳母

姫田吾郎 (27、8) 日東製紙、営業課員、東京、目黒区上目黒、女性的、快活多弁
半年早く出入り 父、日本橋呉服や
村越均 (同) 城北製薬、青白、無口、インキ、(二月前出入)

○白い羽根、日本橋消印 (二度とも)

○墜落 5m10分 (11月3日)

○ソフト、目ガネ、チョビヒゲ、カパンの男 (茶店の女証言)

○鼠色ソフト、同オーバー(長い)目ガネ、(口髭不明) (村の青年 依田一作24歳)

依田一作 (24) 村の青年

○熱海別荘引上げ (11月6日)

杉本正一 11月下旬 杉本正一 (25) フ

チナシメガネ (丸ビル会社から帰り) 渋谷アパート12号室

箕浦刑事 箕浦刑事 (警部補) 40以上

安井課長 安井捜査一課長

○表日附の不在しらべたのまれる。

2

村越のアリバイ調べ。上の図書館。入館証。

□学者山根圭助 クズレタソフト

古い□□カバン

夜、□□、武彦と

村越アパート。執念尾行。…人形

明智一武彦一乳母に由美子外出を表と合せてしらべる。

由美子の鍵のある日記帳

武彦×由美子… □□□□

シット、□□気づく

大河原氏対、明智又は武彦 (巨人対怪人) カバン、人形 隠し場? それを刑事が怪しむ

明智にさとられそうになった時第二の殺人起る

大河原が由美子の為□んいて死ぬ□□

をどこかで書く

被害者の□□□□でラジオをテープレコーダーにとる事

(カバンの中に入れた人形と変装用外套、ハンチング、
之を□□にて友人に渡し、(図書館へ行った□)
(名) そのアパートの押入れにかくす。

明智の所へ箕浦刑事

A.K等の□□調べの結果

男は村越らしい。

女はパール、メガネ、ツケボクロ、

(名アリパイ) 村越し図書館しらべ。

同じく武彦

大河原夫婦の外出、

少年書生の日記、

乳母、女中、小間使

□□□□と由美子は子供時代の親友、

そこで

髪と着物とかえ、又元に戻る。

| | 昭和三十一年 | 入京 |
|----|--------------|-----|
| 姫田 | 5/6 — 10/10 | 2/8 |
| 村越 | 9/下旬 — 11/下旬 | 8/ |
| 武彦 | 12/中旬 — | 1/4 |

洋館の風呂のある寝室へ、深夜大河原不在中
に逢引き。

支配人 黒岩源義 元乳母 種田とみ

小間使 きく 少年、料理女、女中、

老人

運転手の妻、庭番の老人、

美容院 矢野日はま子 親友

3

カバンの中には人形と変装用外套、ハンチング、

之を□□にて友人に渡し、(図書館へ行った□)

そのアパートの押入れにかくす。

明智の所へ箕浦刑事

A.K等の□□調べの結果

男は村越らしい。

女はパール、メガネ、ツケボクロ、

(□アリパイ) 村越し図書館しらべ。

同じく武彦

大河原夫婦の外出、

少年書生の日記、

乳母、女中、小間使

□□□□と由美子は子供時代の親友、

そこで

髪と着物とかえ、又元に戻る。

4

由美子の関係 入京

姫田 5/6—10/10 3月 /

村越 9/下旬—11/下旬 8/

武彦 12/中旬— 10/上

洋館の風呂のある寝室で、深夜大河原不在中

に逢引き。

支配人 黒岩源義 元乳母 種田とみ

小間使 きく 少年、料理女、女中、老人

運転手の妻、庭番の老人、

美容院 矢野日はま子 親友

5
 オール四月号
 (元少女歌劇女優) 股野重郎 40
 (元少女歌劇女優) あけみ 30 (芸名 夕空あけみ)
 (犯人 シナリオライター) 北村克彦
 35
 (女中) ——女中帰省中
 二階洋館 夜八時、冬、土曜日
 門前、川、工場 コンクリーベ
 口論 ストーヴ 殺人(絞殺)、あけ
 み来る コーヒー
 軍手、ブラシ、月夜、別のジャンパー、
 ベレー帽、助ケテ
 証文と札束焼き
 八時半 門前、北村、パトロール
 入口鍵なし、ヤプル、死体、巡査□□
 北村洋服ダンス 錠かけ うしろな
 げ、洋服ダンスからあけみ。覆面の
 男裏から侵入。
 下で夜食の用意
 □□□□□。ククラレル

6
 刑事生活、迷宮入り。
 証文焼き後悔
 明智同伴。
 手袋、月光
 紐、女だけ尾行
 女中□□□して洋服ダンスに隠れ、
 マイクロフォン隠す。
 女中を手に入れ、マイクロフォン
 外に刑事ウロウロ
 最後、拷問の□なし

5
 オール四月号
 元貴族
 (インテリ高利貸) 股野重郎 40
 (元少女歌劇女優) あけみ 30 (芸名 夕空あけみ)
 (犯人 シナリオライター) 北村克彦
 35
 (女中) ——女中帰省中
 二階洋館 夜八時、冬、土曜日
 門前、川、工場 コンクリーベ
 口論 ストーヴ 殺人(絞殺)、あけ
 み来る コーヒー
 軍手、ブラシ、月夜、別のジャンパー、
 ベレー帽、助ケテ
 証文と札束焼き
 八時半 門前、北村、パトロール
 入口鍵なし、ヤプル、死体、巡査□□
 北村洋服ダンス 錠かけ うしろな
 げ、洋服ダンスからあけみ。覆面の
 男裏から侵入。
 下で夜食の用意
 □□□□□。ククラレル

鍵アケサセラルル
 同居、夫婦生活。
 □□□□迷宮入り。
 6
 刑事□□、迷宮入り、
 証文焼き後悔
 明智同伴。
 手袋、月光
 紐、女だけ尾行
 女中□□□して洋服ダンスに隠れ、
 マイクロフォン隠す。
 女中を手に入れ、マイクロフォン
 外に刑事ウロウロ
 最後、拷問の□なし

30.2.11 10Q
 7 面白 4月号バカにみこ、"一寸法師"の夜をふかし、その前夜はプロデューサー金田、監督内川来り酒を呑みダメ。"オール" 9日朝渡したあと也。

着想集

- ① キャバレーにて "男の□" の□□□□□□したいと
 いう心理を見て、ボーイに化けた影男が...
- ② バルザックの不貞の妻 カベ塗りこめ
- ③ 殺人会社へ顧問に (影男)
- ④ 谷崎、恐ろしき戯曲を□じる
 面白はモットエロでなくては
- ⑤ 画家、裸女石膏像ヌリコメて飾っているといふ、コワガラシ、ウソ。
- ⑥ ルプランの カベ□□
 小屋に夫婦ヌリこめ、

小男の
 三人組
 の
 殺人会社
 の
 顧問
 に
 なる
 影男

8

(35才)
 須原正 小男、三人組 (内一人女) 殺人会社
 銀座、ルコック (バー) 午後九時

X氏(40才) 世田谷、高台二階、アリバイの事記すべし。

女重役 35、6才 洋装 フチナシ目
 ガネ
 Xの女25、6才 洋装

7

30.2.11

"面白" 4月号バカにおくれ、10日 "一寸法師試写" で夜をふかし、その前夜はプロデューサー金田、監督内川来り酒を呑みダメ。"オール" 9日朝渡したあと也。

着想集

◎キャバレーにて "男の□" の□□□□□□したいと

いう心理を見て、ボーイに化けた影男が...

◎バルザックの不貞の妻 カベ塗りこめ

◎殺人会社へ顧問に (影男)

◎谷崎、恐ろしき戯曲を□じる

面白はモットエロでなくては

◎画家、裸女石膏像ヌリコメて

飾っているといふ、コワガラシ、ウソ。

◎ルプランの カベ□□

小屋に夫婦ヌリこめ、

これを□の□□□

□□□□□

8

須原正 (35.6才) 小男、三人組 (内一人女) 殺人会社

銀座、ルコック (バー) 午後九時

X氏40才 (世田谷) 高台二階、アリバイの事記すべし。

女重役 35、6才 洋装 フチナシ目
 ガネ

Xの女25、6才 洋装

9. 化人红崖 四月号 (鲁立图) 30.3.18

川崎第二工場に修繕へ行ったのに仕方がない
た。1日お休みするの分が悪い。二三日は休むし

- ① 海王の日記中長々と書くとおかしな文章
- ② 村松の書生への手紙とか
- ③ 千代の日記と面談の2冊を完成。
- ④ 村松の日記とついでに「おれ」の日記。 おれは又々々 278

278
201

孫科 / 工陽見季 30.3.1.
付院前 工夕仙高金

10



庭に於ては、

- ④ 人の形を新しし、カバンと紫色外套を着せしめた。
たのせ。

9

化人幻戯 四月号（第五回）30.3.1日
川崎秀二應援に伊賀へ行ったのでや
はりおくれた。

1日には渡しずみのはず也。二三日しか日なし

◎由美子日記帳のことを どこかに
伏線

◎村越しの脅迫を入れるか否か

◎千住のゴミ古道具やでマネキンを買う。

◎村越しの代理をつとめた友人カバンを預かる。讃岐丈吉278 30才

10

マネキン工場見学 30.3.1

伝通院前、スタイル商会

ツグ

ネンド原型

石膏女型

手先ダケビニール

鐵棒

ファイバー三回分厚さ

女洋風 卸一万一千 小売一万六千

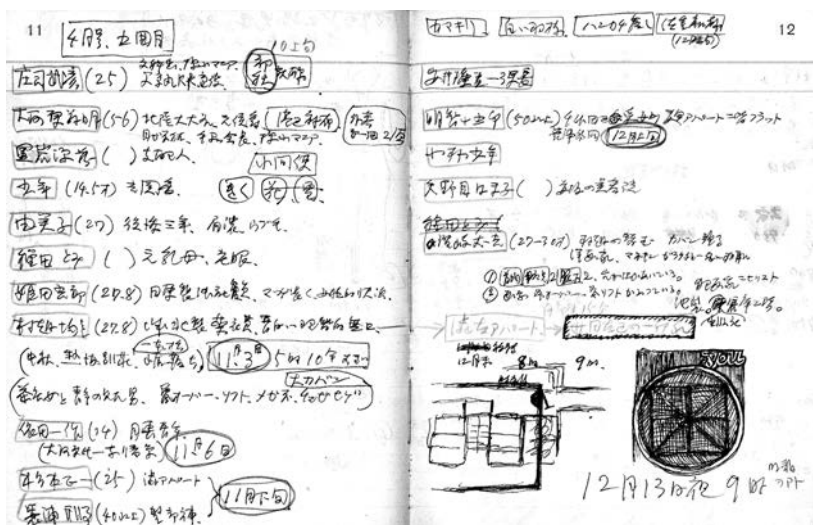
義眼入り日本髪ハ二万円以上

ファイバーの上に□□□を□□□、
ゴフンを三度も塗り、紙ヤスリをかけ、

ラッカー（色ツキ）を吹きつける。

庭に乾してある。

◎人形だけ残して、カバンと鼠色外套は賣ってしまったの也。



11

4月号、五回目

庄司武彦(25) 文科出、探小マニア

父丸KK重役 初秋就職 10月上旬

大河原義明(56) 北陸大名、元侯

爵 港区麻布 外容第一回21頁

目ガネ狂、手品会長、探小マニア

黒岩源義() 支配人

小間使 きく 花 雪

少年(14.5才) 玄関番

由美子(27) 後添三年、眉濃、ウブ毛

種田とみ() 元乳母、老眼

姫田吾郎(27.8) 日東製紙社員、マツ

ゲ長く、女性的快活

村越均(27.8) 城北製薬社員、青白い

理智的、無口、

(中秋、熱海別荘、一本橋、峠落ち)

11月3日5時10分すぎ

(茶店女と青年の見た男、茶オーバー、

ソフト、メガネ、チョビヒゲ、大カ

パン)

依田一作(24) 目撃青年

(大河原氏一家帰京) 11月6日

杉本正一(25) 澁アパート

箕浦刑事(40以上) 警部補 11月下旬

12

カマキリ、白い羽根、ハンカチ落し、

浴室痴戯(12月上旬)

安井捜査一課長

明智小五郎(50以上) 千代田区采女

町 麴アパート二階フラット

箕浦訪問 12月上旬

小林少年

矢野目はま子() 赤坂の美容院

種田とみ

讃岐丈吉(27-30才) 村越の替玉 カ

バン預る

洋画家、マネキンガラクタと一緒に

不明に

①首胸 腕足2 下2、穴が沢山あいて

②画家 鼠オーバー、鼠ソフトかぶ

つている。 版画家 ニヒリスト 池袋 出版社

倉庫二階。

渋谷アパート 世田谷区 家

12月13日夜9時 □□のアト

仮名疑問

30.3.29



15

仮名疑問 30.3.29

ドチラニ決める

昨日今日明日一昨日今朝今年開く問
数外

必らず 陰り 話し 小間使 から
だ (の漢字なし)

明かるい 煙り 向こう 起こった
考え はだか (漢字なし)

① 送り仮名の問題

二様に読めるために当座仮名をふら

今日、昨日、明日、一昨日、今朝、今年

開 問 数 外 埋

一こと二こと (一と言 二と言)

② 送り仮名の問題、名詞につけるか？

必らず 〇り 光り 話し 考え

小間使い 名詞

明かるい△ 煙り 名詞 向こう△

起こった△

③ 漢字のない言葉 (〇〇にはさまれ

と読みにくい)

はだか、かざん、

16

①ふり仮名の問題

二様に読めるために当座仮名をふら
なければなら言葉

今日、昨日、明日、一昨日、今朝、
今年、

開 問 数 外 埋

一こと二こと (一と言 二と言)

②送り仮名の問題、名詞につけるか？

必らず 〇り 光り 話し 考え

小間使い 名詞

明かるい△ 煙り 名詞 向こう△

起こった△

記す (しるす) 押入れ

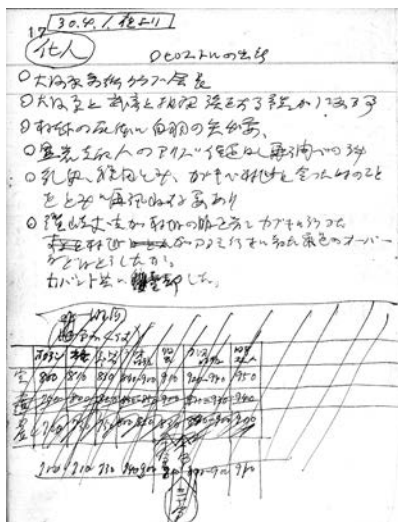
△印は仮名ばかりでもいいのだが、

仮名の間にはさまると読みにくい

ので、その便宜の、仮名代りの目印
し

れる漢字といふ意味に

③漢字のない言葉 (〇〇にはさまれ
ると読みにくい)



17

30.4.1. 夜より

化人 ○ピストルの出所

○大河原奇術クラブ会長

○大河原と武彦と推理談をする予定がしてある事

○村越の死体に白羽の矢必要

○黒岩支配人のアリバイ□□□□□□□□

○乳母、種田とみ、カブキで村越と会った時のこと

をとみに再訊ねする要あり

○讃岐丈吉が村越の服を着てカブキに行った

すると村越 がアタミ行きに着た鼠色のオーバー

などはどうしたか。

カバント共に賣却した。

24

夕食6時、8.15の前に紅茶運ばせておく(1時20分の間)

4分オクラシ

○茶の間ラジオ午後コワシ

○茶の間□□時計10-15分位おくらし

○乳母、少年、自動車にて使に出す
815-940まで帰らぬ事

○黒岩タ方帰宅

○夜小間使の一人帰省(病人あり)

残るは、小間使、女中2人、爺やのみ

○主人腕時計、オクラシ

○武彦腕時計、ヒル間にコワシ

○書斎、客間、武彦、□□ベや30分時計おくらし

(18-23、切り取られている)

16日夜 6時夕食
 7時 妻が部屋へ入る。読書。
 8時 紅茶 小間使が戻ってくる。
 840 ラジオ (夫人と誰かが話している)
 900 入浴
 930 寝台へ。
 12月 15日
 讃岐丈吉 千住にて川へつき落され
 数日後川下に死体漂着。
 (ピストル買って村越しに与える)
 黒岩老人を箕浦尾行。ラジオも隅田
 川オトシも□□□も アリバイ不明

夫人の日記。主人もよむ。
 大河原氏毒ミルク知って呑もうとする。
 武彦とめる。
 (丈吉の死報告) 丈吉の室内 マネキン (カバン、外套、ソフト)
 殺人トリック 窓のトリック
 アリバイ (不明黒岩老人のみ)
 ピストル
 小型ドイツ製ワルサー 25。6.35ミリ。
 キャパシティー (丸の数) 九発、連発
 長 13.1センチ □、小型自動□□□
 □□ 黒
 0.366キログラム
 □□マーケットで入手し□
 明智訪問 16日夜
 花田訪問 14日夜
 白羽の□□
 黒岩老人□
 □□と□□□□
 □□アリバイ
 窓のトリック
 ピストル与へ、マネキン、カバン、
 オーバー、□□

25

□□、密室、アリバイ調べ、
 16日夜 6時夕食
 明智が大河原氏訪問 問答
 7時書斎 8時前 □□□□
 8時少しすぎ10分位に 書斎にこもり
 (810) 紅茶800 読書
 840分ラジオまで、900 入浴、寝る。
 6時—7夕食
 7時書斎へ入る。読書
 8時 紅茶 小間使が戻ってくる。の
 を夫人が取りついで
 (夫人と□□□□しておいた) 夫人
 に呼ばす
 840 ラジオ
 900 入浴
 930 寝台へ
 12月 12日 15日
 讃岐丈吉 千住にて川へつき落され
 数日後川下に死体漂着。
 (ピストル買って村越しに与える)
 黒岩老人を箕浦尾行。ラジオも隅田
 川オトシも□□□も アリバイ不明

26

夫人の日記。主人もよむ。
 大河原氏毒ミルク知って呑もうとする。
 武彦とめる。
 (丈吉の死報告) 丈吉の室内 マネキン
 (カバン、外套、ソフト)
 殺人トリック 窓のトリック
 アリバイ (不明黒岩老人のみ)
 ピストル
 小型ドイツ製ワルサー 25。6.35ミリ
 戦前よくあった。
 キャパシティー (丸の数) 九発、連発
 長 13.1センチ □、小型自動□□□
 □□ 黒
 0.366キログラム
 □□マーケットで入手し□
 明智訪問 16日夜
 花田訪問 14日夜
 白羽の□□
 黒岩老人□
 □□と□□□□
 □□アリバイ
 窓のトリック
 ピストル与へ、マネキン、カバン、
 オーバー、□□

27 30.4.8日 駿台莊つづき(4.4より滞在)

影男 遊蕩紳士 殿村啓介

死名からつ 3人組人形

色子。黒沼。西田。妹尾。星野。
水谷。松本恵子。長谷川修二。

永戸。村崎。□□。清水俊二。宇野利泰

600字解説

27

30.4.8日 駿台莊つづき(4.4より滞在)

影男 遊蕩紳士 殿村啓介

朝日グラフ □□人物

延原。黒沼。西田。妹尾。星野。

水谷。松本恵子。長谷川修二。

永戸。村崎。□□。清水俊二。宇野利泰

600字解説

1/27 30.4.8日 駿台莊つづき(4.4より滞在)

全用。活字の2-10 文芸春秋社

600字。私の処女出版 桑原住雄

17日メ切

少年

灰色の巨人

7月号予定

少女はコマ犬

大男はオリの熊

一寸法師はタマノリの球

少年

海底の魔術師

七月号予定

賢吉少年 ハヤブサ丸

甲板にて、船員にばけた

悪漢に、夜、サルグツワ

樽づめになる。

28

全集第7巻 白髪鬼から、(疑惑)を抜いた

千代田、内幸町2-10 東京新聞社文化部

桑原住雄

400字、私の処女出版

17日メ切

少俱

灰色の巨人

7月号予定

少女はコマ犬

大男はオリの熊

一寸法師はタマノリの球

少年

海底の魔術師

七月号予定

賢吉少年 ハヤブサ丸

甲板にて、船員にばけた

悪漢に、夜、サルグツワ

樽づめになる。

| 29 | 犯罪十字路 | 30.4.20朝第二回 駿台荘 |
|---|-------|--------------------|
| 八時、牛ナベをたべおわる | | |
| 九時、殺人ののち、トリックを考へたあと。 | | |
| 9.20 死体を自動車に運ぶ | | |
| 10.00 青梅街道に入る。新宿出発 | | |
| 10.10 一30 死体検査 | | |
| 11.30 青梅 | | |
| 12.30 峠 | | |
| 1.00 藤瀬への岐れ道 | | |
| 1.20 藤瀬部落着 | | |
| 二月二十五日夜 | | |
| ◎花代、アパートに落したかも知れぬと気づくこと、そして晴美に訊ねるが、彼女は知らぬということ。 | | |
| ◎訂正一週間で水入れを四日で水入れと。 | | |
| ◎芳江の誰かに見守られている感じ、抜かしたから、どこかへ入れる事。 | | |
| ◎十字路で闖入する所省く方よろし | | |

| 29 | 犯罪十字路 | 30.4.20朝第二回 駿台荘 |
|---|-------|--------------------|
| 八時、牛ナベをたべおわる | | |
| 九時、殺人ののち、トリックを考へたあと。 | | |
| 9.20 死体を自動車に運ぶ | | |
| 10.00 青梅街道に入る。新宿出発 | | |
| 10.10 一30 死体検査 | | |
| 11.30 青梅 | | |
| 12.30 峠 | | |
| 1.00 藤瀬への岐れ道 | | |
| 1.20 藤瀬部落着 | | |
| 二月二十五日夜 | | |
| ◎花代、アパートに落したかも知れぬと気づくこと、そして晴美に訊ねるが、彼女は知らぬということ。 | | |
| ◎訂正一週間で水入れを四日で水入れと。 | | |
| ◎芳江の誰かに見守られている感じ、抜かしたから、どこかへ入れる事。 | | |
| ◎十字路で闖入する所省く方よろし | | |

30

プロローグ

第一章 ハイヒール

第二章 シガレット・ケース

第一部 緑のシグナル

第三章 フラット 三十六号 浴室の殺人

第四章 追突□□

第五章 松葉杖の女

第六章 もう一つの死体 二つになった死体 第二の死体

第七章 花代の行方 凍った谷間 凍った山道

第二部 黄色のシグナル

第八章 私立探偵 南探偵事務所

第九章 好敵手

第十章 キャディラックの主 十字路の秘密

31 30.5.4日夜より化人考へる。
 2日江戶怪物団屋敷15枚城君に
 3日角田嬢踊り、15ミリ二人が□□
 化人 庄司武彦。心理。日記帳。
 明智は□□調べ
 日記内容
 大河原、探小マニア、奇術、レンズ
 狂
 由美子 結婚三年
 姫田、村越 庭での喧嘩、
 ハンカチ落し□□が実験した。
 青年が見たのと、人形落しと別人也
 種田とひとカブキで会ってアリバイ
 19日夜 日記帳持って 明智訪問
 21日午後、由美子 庄司の部屋へ来
 る。(主人外出)
 21、5時 市ヶ谷見附駅で車にのる
 麹町区の焼けあと、防空壕

32
 10月 明治44年
 10月初旬 村越出入り
 10月2日 村越出入り
 10月初旬 武彦雇はれ
 10月12.3日頃 姫、村、庭ケンカ
 25日頃 白羽の矢□□□
 11月3日午後5.10崖落ち
 4.30より早く変装男茶店 チョビヒ
 ゲ、鼠オーバー、カバン
 11.6日 熱海引上げ
 11、下旬 杉本を箕浦訪問
 半月 姫田日記帳暗号数字 (5.6—
 10.10)
 明智、庄司に大河原家アリ
 バイを調べさせる。一週間かかる。
 12月上旬3日 明智を箕浦訪問
 4日 浴室痴戯
 12.5日 村越渋谷アパートへ引越す。
 神南荘
 12 56頃より 尾行、丈吉訪問、(ピ
 ストル貰いに) □□□□12.11日
 12 12日夜 丈吉水死
 12.13日夜 村越ピストル死
 坂口十三郎 ヴァイオリン□□
 ラジオ
 12.16夜 明智、大河原邸訪問
 19日 白昼痴戯 日記帳の盗み出し

31

30.5.4日夜より化人考へる。
 2日に“江戸怪物団”昼頃15枚城君に
 渡す
 3日は角田嬢踊り、15ミリ二人が□□
 化人 庄司武彦。心理。日記帳。
 明智は□□調べ
 日記内容
 大河原、探小マニア、奇術、レンズ
 狂
 由美子 結婚三年
 姫田、村越 庭での喧嘩、
 ハンカチ落し□□が実験した。
 青年が見たのと、人形落しと別人也
 種田とひとカブキで会ってアリバイ
 19日夜 日記帳持って 明智訪問
 21日午後、由美子 庄司の部屋へ来
 る。(主人外出)
 21、5時 市ヶ谷見附駅で車にのる
 麹町区の焼けあと、防空壕

32

3月頃 姫田出入り
 8月初 11月
 9月2日 村越出入り
 10月初旬 武彦雇はれ
 10月12.3日頃 姫、村、庭ケンカ
 25日頃 白羽の矢□□□
 11月3日午後5.10崖落ち
 4.30より早く変装男茶店 チョビヒ
 ゲ、鼠オーバー、カバン
 11.6日 熱海引上げ
 11、下旬 杉本を箕浦訪問
 半月 姫田日記帳暗号数字 (5.6—
 10.10)
 明智、庄司に大河原家アリ
 バイを調べさせる。一週間かかる。
 12月上旬3日 明智を箕浦訪問
 4日 浴室痴戯
 12.5日 村越渋谷アパートへ引越す。
 神南荘
 12 56頃より 尾行、丈吉訪問、(ピ
 ストル貰いに) □□□□12.11日
 12 12日夜 丈吉水死
 12.13日夜 村越ピストル死
 坂口十三郎 ヴァイオリン□□
 ラジオ
 12.16夜 明智、大河原邸訪問
 19日 白昼痴戯 日記帳の盗み出し



33
II
30.5.8
南博著 "社会心理学" 光文社 昭24年
を読む。光文社カップブックに小生の探
小随筆
を入れ、心理的に口述速記させようとあ
けたる
評論也

P.137 "南ニューギニアのケラキ Keraki 族
のように
少年から成年になる間に、受働的同性愛
行為
能働的同性愛行為を強制される一時期を
経てはじめて成人として異性ととの性行為
が許
される場合也"
Ruth Benedict,
Continuities and discontinuities in conditioning
Psychiatry, I, 1938, pp161-7
探小随護資料
P.236 "タブー違反の予期に伴う不安感を
解消させる方法としては、呪術と説話が
ある。例へばナヴァホ族で近親相姦がタ
ブーとなっているに対して、神話の中で
それを敢行する事が許されているとき
である"
C. Kluckhohn, Navaho Witchcraft (1944)
(Kluckhohn)
A.I. Hallowell, Aggression in Saulteaux
society, Psychiatry, 3, 1940, 395-407

34
探小弁ゴ
P.236 "またタブーとされている殺人ある
いは傷害を行うことが出来ぬ不満の解消
に呪術が用いられていることは前記儀礼
のところで触れた"
P.233 "呪術の効用として社会心理学的に
重要なのは、それが集団的不安を解消し、
或いは集団内の抗争、敵対感を実際の闘
争にまで爆発させる代りに、非現実的な
心理的レヴュエルに於て処理する所であ
る。例えば呪文によって人を"殺したい"
或いは後に見る如くタブーから不満を心
理的に解消したりすることが出来る。"
支那の皇帝の衣を剥がして□□とする例
呪術、儀礼は□□では□□□、□の□□、
□□
呪術の持つ心理的效果についての実証的
研究としては
○A.I. Hallowell, 左頁下の書 (□□か)
○Kluckhohn, 同上
又、説話、儀礼を未開人の不安に対する
防禦テクニックとして
論じたものには
○Kluckhohn, Myths and rituals: A general
theory, Harvard Theological Rev., 35, 1942, 45-79

ギリシャ悲劇 = カタルシス
○この意味でロシア文学を□□しないで
大いに□□すべきである
○演劇的社会に於ては、日本の□□も同
様。

(39³⁰³⁴ 6.14¹²)

~~本~~ 5月22日(土) 25日(火) 休。省民。澤田石松也
因天候中止。参加。

に「植物図」の字を削りと両方の紙を合せて了。
また、(玉木) 紙の裏に他をいふ。

26日より6月10日に「支那」の「時評」35紙
 にかかり、26日版で（27日版から）と伝記の

20一杯 豫山王様君く 28日中夜に夢見し。其の事記す。
豊成堂の御方周忌。
 3日大に「死人幻形」なるか。 徳川家康公の御方周忌。

3日大い「犯人の幻術」にかかると。犯人の幻術にかかると

大岡政談の登場人物は

その結果、 $\frac{1}{2} \log 2$ となる。

○ 大坂のミヅの神のツバキをさる。

○後年の泡盛

40

④ 柏智の年理人11

○ 老ハア-ハ- (美多の字)

[illegible]

① ねに中の 番号の記入が 4 分 10 秒の予定。残り 4 分 20 秒

9

○大河原の三件の□のアリバイを考
ふ。

○後半の注意。

40

◎明智の手掛り

○長いオーバー（青年の□□）

武彦に大河原のオーバーを調べさせる

○日記中の青年の見た男の“クチ髭”
の□□。青年は見えていない。

イキ

| | |
|-----------------------------------|----|
| 30.6.25日 第三部に入る | 42 |
| 41 | |
| 花田十字路 | |
| プロローグ (1-64) 64 | |
| 第一章 ハイヒール (1-39) 39 | |
| 第二章 シガレット・ケース (40-64) 64 | |
| 第一部 緑のシグナル | |
| 第1章 若葉荘 (65-122) 122 | |
| 第2章 十字路 陸橋の下 (123-155) 155 | |
| 第3章 松葉杖の女 (156-183) 183 | |
| 第4章 第二の死体 闖入者 (184-221) 221 | |
| 第5章 靴の行方 湖底の秘密 (222-271) 271 | |
| 藤瀬ダム 古井戸の底 湖水の底 | |
| 第二部 黄色いシグナル | |
| 第6章 南探偵事務所 (272-329) 329 | |
| 第7章 好敵手 | |
| 第8章 交叉点 犯罪十字路 死の十字路 (376-418) 418 | |
| 第三部 赤いシグナル | |
| 第9章 よく似た顔 二人の孤独者 | |
| 新巻 対決 (523-572) 572 | |
| 新巻 第二の殺人 (573-613) 613 | |
| 新巻 破局 数度の電話 訣別 (614-680) 680 | |
| エピローグ 第十六章 花束 (681-702) 702 | |

41

30.6.25日 第三部に入る

犯罪十字路

プロローグ (1-64)

第一章 ハイヒール (1-39) 39

第二章 シガレット・ケース (40-64)

25

第一部 緑のシグナル

第1章 若葉荘 (65-122)

第2章 十字路 陸橋の下 (123-155)

第3章 松葉杖の女 (156-183)

第4章 第二の死体 闖入者 (184-221)

第5章 靴の行方 湖底の秘密 (222-271)

藤瀬ダム 古井戸の底 湖水の底

第二部 黄色いシグナル

第6章 南探偵事務所 (272-329)

第7章 好敵手

第8章 交叉点 犯罪十字路 死の十字路 (376-418)

第三部 赤いシグナル

第9章 よく似た顔 二人の孤独者

(419-477)

第10章 花田警部 (478-522)

第十三章 第二の殺人

第十四章 破局

エピローグ 第十五章 花束

42

第11章 対決 (523-572)

第12章 第二の殺人 (573-613)

第13章 破局 数度の電話 訣別 (614-680)

エピローグ 第十六章 花束 (681-702)

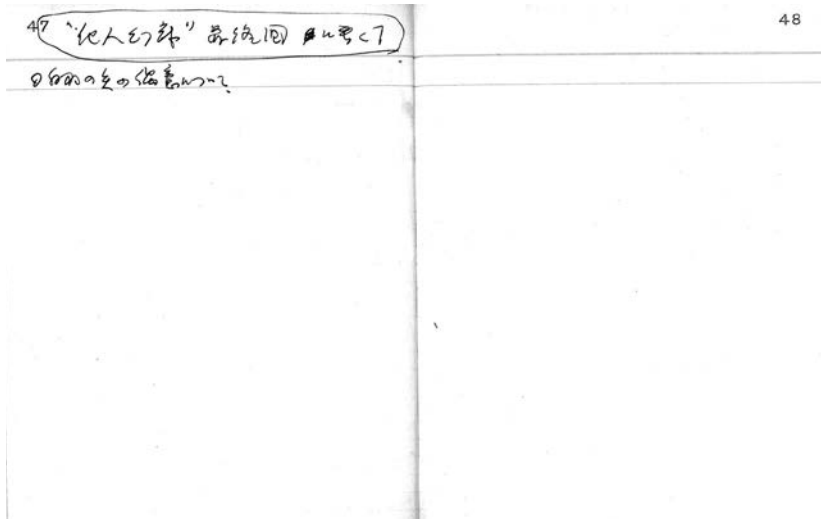
43 30.6.29
 化人幻戯 はじめろ。
 ○28日は三十一年を書いた。
 ○その前、25、6両日は“犯罪十字路”
 第十、十一章50枚を書いた。
 一月号
 ○白い羽根(日本橋局)
 ○二階のピアノの音(アリバイ、テー
 プレコーダー)
 ○小間使二人、女中二人、料理女一
 人、
 庭番老人一人、運転手妻君
 7.1日夜に至るも書けず。前後のプロ
 ットむつかし
 (30日には新聞社来り、午後ビールに
 つぶす)
 (1日は正午、ホテルテイトにて犯罪
 学会送別会)
 日記□□れたと知り、由美子武彦を
 どこかへ
 呼び出し縛る。たとえばあんたを殺
 す。
 明智に渡したので□□を返した。

あなたは主人に殺されなければならぬ。

44 着想 小説 新潮の為に。
 黒ウス(第四)25頁見よ。ザングイ
 ル □□や一人二役
 明智が調べる
 □□ゴルフから帰った時間。(アリバ
 イ調べ) ユックリ安全運転とスピー
 ドの差
 自動車の中に変装オーバー
 村の青年に聞く。ヒゲの事。長い外
 套のこと。
 ○武彦が日記見せた時、明智は由美
 子がどこかへ
 □□□必ず□□□に電話せよと命ず。
 ○一方大河氏には毒の注意を与ふ。
 ○日記帳と□□を□に返しておく。
 ○大河氏毒薬半分のむ。□□死んだ
 見せかける。
 2日土曜会、帰り□□□□□□。□□
 □□。
 □新宿プロイセン、木村、岩田、朝山、
 千代

44

着想 小説 新潮の為に。
 黒ウス(第四)25頁見よ。ザングイ
 ル □□や一人二役
 明智が調べる
 □□ゴルフから帰った時間。(アリバ
 イ調べ) ユックリ安全運転とスピー
 ドの差
 自動車の中に変装オーバー
 村の青年に聞く。ヒゲの事。長い外
 套のこと。
 ○武彦が日記見せた時、明智は由美
 子がどこかへ
 □□□必ず□□□に電話せよと命ず。
 ○一方大河氏には毒の注意を与ふ。
 ○日記帳と□□を□に返しておく。
 ○大河氏毒薬半分のむ。□□死んだ
 見せかける。
 2日土曜会、帰り□□□□□□。□□
 □□。
 □新宿プロイセン、木村、岩田、朝山、
 千代



47

“化人幻戯” 最終回を書く事
○白羽の矢の偶意について

48

49 30.8.21/10年 よみうり 1/10/10

魔法博士 魔術博士

氷トリック 鏡トリック

雪ダルマ ×××××× 人形 案山子
六つのナポレオン 偽手首 獅子の爪
プーメラング、

足アトトリック (イザリ、竹馬) 腹話術、
二つの□□、密室脱出、ドアに針を立てる

七回分 8月23日頃 七回分渡した

最終頁見よ

魔術師 12月予定

○別の洞窟の枝道からのぼりカニに化ける
○カニと水中の格闘
○断崖上からとばせる。

灰色 12月

○豪華客船のヘリコプターと□し賊のもの
○その運転手に明智が化けている。
機上の回答“二十面相だ”
○賊はパラシュートにてとびおり、
□□どこかに降下し、そこに少年探偵団まちぶせ

49

30.8.21日□ よみうり □□□

魔法博士 魔術博士

黄金豹

氷トリック 鏡トリック

雪ダルマ ×××××× 人形 案山子

六つのナポレオン、偽手首 獅子の爪

プーメラング、

足アトトリック (イザリ、竹馬) 腹話術、

二つの□□、密室脱出、ドアに針を立てる

七回分 8月23日頃 七回分渡した

最終頁見よ

50

魔術師12月予定

○別の洞窟の枝道からのぼりカニに化ける

○カニと水中の格闘

○断崖上からとばせる。

灰色12月

○□□会社のヘリコプターと□し賊のもの

○その運転手に明智が化けている。

機上の回答“二十面相だ”

○賊はパラシュートにてとびおり、

□□どこかに降下し、そこに少年探偵団まちぶせ

| | |
|------------|------------------------------------|
| 79 | 80 |
| | 增建山 土庫 廟宇 廟宇 (2, 3, 4, 5) |
| 1945.10.15 | 王德 男 35 农民 1.5.1.1.1.1 1.5.1.1.1.1 |
| 1945.10.15 | 王德 男 35 农民 1.5.1.1.1.1 1.5.1.1.1.1 |
| 1945.10.15 | 王德 男 35 农民 1.5.1.1.1.1 1.5.1.1.1.1 |
| 1945.10.15 | 王德 男 35 农民 1.5.1.1.1.1 1.5.1.1.1.1 |
| 1945.10.15 | 王德 男 35 农民 1.5.1.1.1.1 1.5.1.1.1.1 |
| 1945.10.15 | 王德 男 35 农民 1.5.1.1.1.1 1.5.1.1.1.1 |
| 1945.10.15 | 王德 男 35 农民 1.5.1.1.1.1 1.5.1.1.1.1 |
| 1945.10.15 | 王德 男 35 农民 1.5.1.1.1.1 1.5.1.1.1.1 |
| 1945.10.15 | 王德 男 35 农民 1.5.1.1.1.1 1.5.1.1.1.1 |
| 1945.10.15 | 王德 男 35 农民 1.5.1.1.1.1 1.5.1.1.1.1 |

79

80

81

82

陈北 2000

1. 姓名 2. 性别 3. 年龄 4. 职业 5. 住址 6. 备注

1. 姓名 2. 性别 3. 年龄 4. 职业 5. 住址 6. 备注

1. 姓名 2. 性别 3. 年龄 4. 职业 5. 住址 6. 备注

1. 姓名 2. 性别 3. 年龄 4. 职业 5. 住址 6. 备注

1. 姓名 2. 性别 3. 年龄 4. 职业 5. 住址 6. 备注

1. 姓名 2. 性别 3. 年龄 4. 职业 5. 住址 6. 备注

1. 姓名 2. 性别 3. 年龄 4. 职业 5. 住址 6. 备注

1. 姓名 2. 性别 3. 年龄 4. 职业 5. 住址 6. 备注

1. 姓名 2. 性别 3. 年龄 4. 职业 5. 住址 6. 备注

1. 姓名 2. 性别 3. 年龄 4. 职业 5. 住址 6. 备注

1. 姓名 2. 性别 3. 年龄 4. 职业 5. 住址 6. 备注

1. 姓名 2. 性别 3. 年龄 4. 职业 5. 住址 6. 备注

81

82

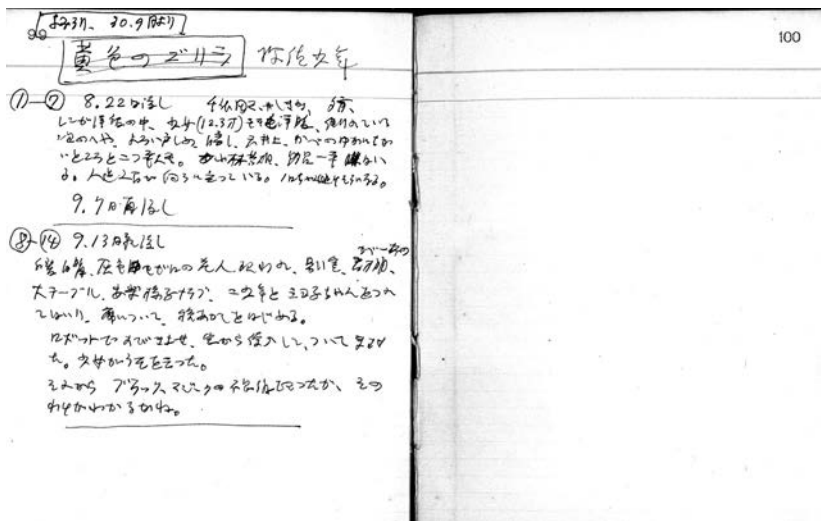
83

84

2

后得卷(续)

| 577 | 时 云 | 4月 25 | 1月 25 | 4月 25 | 4月 25 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 19 | 10-10 | 200 | 100 | 200 | 100 |
| 2/4 | 10-10 | 200 | 100 | 200 | 100 |
| 1/2 | 10-10 | 200 | 100 | 200 | 100 |
| 1/4 | 10-10 | 200 | 100 | 200 | 100 |



99

よみうり 30.9月より

黄色のゴリラ 探偵少年

①—⑦ 8.22に渡し 千代田区やしき町、夕方、

レンガ洋館の中、少女(12.3才)モモ色洋服、倒れている

次のへや、よろい戸しめ、暗し、天井上、かべのゆかにちか

いところと二つ電燈。小林芳雄、野呂一平 はい

る。人造人間が向うに立っている。ノロちゃん逃げそうになる。

9.7日渡し

⑧—⑭9.13日朝渡し

白髪白髯、灰色セビロの老人現われ、別室、カペー杯の書棚、

大テーブル、安楽椅子ナラプ、二少年とミヨ子ちゃんをつれ

てはいり、席について、種あかしをはじめる。

ロボットでおびきよせ、窓から侵入して、ついて来させ

た。少女がうそを云った。

それからブラックマジックの不思議起ったが、そのわけがわかるかね。

100